



あぐりあす

第281号

令和7年3月13日発行
久慈農業改良普及センター
経営指導課：0194-66-9684
産地育成課：0194-66-9683
地域指導課：0194-53-4989
FAX：0194-53-5009



～ 掲 載 内 容 ～

ページ

1 久慈地域の情報

○普及現地情報

- ・ 農業・漁業に従事する女性が集いました～むら・もり・うみネットワーク 会議集合研修開催～ . . . 1
- ・ 郷土料理について意見を交わしました～久慈地域の郷土料理を味わう会開催～ . . . 2
- ・ 新規就農者と農業農村指導士等の研修交流会を開催！ . . . 3
- ・ 「手打ちそば」を作ろう～高校生への郷土料理伝承会（第3回）開催～ . . . 4
- ・ 経営力向上研修会（計数管理、経営継承）を開催しました！ . . . 5
- ・ 水稻新品種「岩手141号」の試食会。好評でした！ . . . 6
- ・ オンラインによる農業現場視察を開催しました！ . . . 7
- ・ 地域で輝く若手女性が集いました～久慈地域で農業に関わる若手女性の研修交流会開催～ . . . 8
- ・ 品揃え充実に向けた野菜栽培について学びました～久慈地域産直連絡協議会研修会開催～ . . . 9
- ・ 露地ピーマン栽培で「グリーンな栽培体系技術検討会」を開催！ . . . 10

○農業農村指導士・青年農業士が認定期間満了

- ・ 農業農村指導士の長坂信一さん、青年農業士の堤内裕子さんの認定期間が満了となりました。 . . . 11

2 お知らせ

○いきいき農村基盤整備事業

- ・ 国庫補助事業の対象外である小規模な地区において、地域の実情に応じたきめ細かな基盤整備を実施します。 . . . 13

○令和7年度いわてグリーン農業アカデミー 受講生募集中

- ・ 環境保全型農業の実践に必要な知識や技術を習得する研修を実施します。 . . . 14

○いわてアグリフロンティアスクール 令和7年度受講生募集

- ・ 経営感覚・企業家マインドを持って経営革新や地域農業の確立に取り組む、先進的な農業経営者等を養成します！ . . . 16

○山火事注意

- ・ 3月1日～5月31日は山火事防止運動月間です。
ふるさとの 山を守ろう 火の手から . . . 18

普及現地情報
令和6年12月2日
久慈農業改良普及センター
記述者 藤尾 あゆみ

農業・漁業に従事する女性が集いました ～むら・もり・うみネットワーク会議集合研修開催～

久慈農業改良普及センターでは、11月7日に農業及び漁業の女性組織の会員が互いの組織の活動を知り、交流を深め、今後の組織活動に役立てることを目的に標記研修会を開催し、ネットワーク会議の4構成団体の会員ら30名が参加しました。

集合研修の企画は毎年構成団体が持ち回りで行っており、今年はいくじ酪農生産部会女性部（ミルクレディース）が、「株式会社おおのミルク工房」の見学を企画。浅水代表取締役から、沿革や経営理念について説明いただいた後、パック詰めしている「おおのゆめ牛乳」を見学し、普段馴染み深い地元の牛乳ができるまでの工程に理解を深めました。創業以来、地域の学校給食に採用されており、「子どもたちの認知度の高さは誇りであり励み」とのこと。

昼食後は互いの活動内容や普段の仕事内容について情報交換した後、「むら・もり・うみフォーラム」にオンライン参加。地域内外の女性の活動や活躍に理解を深めた一日となりました。



(株)おおのミルク工房の見学。浅水代表取締役の説明に、一同耳を傾けました。



食育活動や普段の仕事内容について情報交換。

郷土料理について意見を交わしました ～久慈地域の郷土料理を味わう会開催～

やませの郷食の技研究会（岩手県食の匠 25 名・団体で構成）及び久慈地方農業農村活性化推進協議会では、11 月 27 日に管内飲食店等における郷土料理の提供や認知度向上につなげることを目的に標記研修会を開催し、飲食店・観光業関係者ら 46 名が参加しました。

研究会では 3 か月前からメニューの選定や参加誘導を行い、当日は、食の匠が丹精込めて作った 13 品の料理を試食いただきました。その後、ベテラン料理人や飲食店等の経営者はもちろん、郷土料理に興味がある地域おこし協力隊など 20～30 代の若者や I・U ターン者など、男女とも多様な属性の参加者が 9 人程度の小グループに分かれ意見交換。郷土料理の地域資源としての強みや、ストーリーや背景といった食文化を伝えることの重要性、地元の人はもちろん観光客が食べることができる機会の提供、家で食べる機会を増やすために親子への伝承といった話題で盛り上がりました。

研究会、協議会とも、今回出された様々な意見を参考に、次年度以降の事業や伝承活動に取り組んでいきたいと思います。



飲食店や観光業関係者、地域おこし協力隊、関係機関、食の匠で意見を交わしました

新規就農者と農業農村指導士等の研修交流会を開催！

新規就農者の経営発展に向けて「新規就農者と農業農村指導士等の研修交流会」を 11 月 22 日に開催し、新規就農者や農業農村指導士・青年農業士等 35 名が参加しました。

現地研修では、ほうれんそうのベテラン農家で農業農村指導士の長坂信一氏から、36 年間の栽培経験を振り返り試行錯誤した土づくりのポイントについて説明していただき、普及センターからは、生育不良改善及び土壌還元消毒の実証結果について情報提供を行いました。

研修交流会では、普及センターから「土づくり」をテーマとした講義を行ったあと、グループワークで新規就農者の抱える課題等について、農業農村指導士から課題解決に向けて様々な助言をいただきました。

今後こういった取組を通じて新規就農者等が農業農村指導士等先輩農業者に技術・経営両面で気軽に相談できるよう支援していきます。



現地研修会の様子



グループワークの様子

「手打ちそば」を作ろう ～高校生への郷土料理伝承会（第3回）開催～

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、11月15日、久慈東高校食物系列の3年生10名を対象に食の匠による高校生への郷土料理伝承会の第3回を開催しました。

今回は、成谷自然食の会代表の岩脇ヨシエさんと金子正子さん（久慈市山形町）に「手打ちそば」を教わりました。山形町の手打ちそばはつなぎに豆腐を加えた滑らかな麺が特徴で、冠婚葬祭や庭じまいに食べられ、昔はほとんどの人が手打ちそばの技術を持っていたそうです。生徒は生地のコネ方から茹で方までコツを教わりながらそばを打ちました。

試食後、生徒からは「生地をつなぎに豆腐と卵を使うことを初めて知った」「生地を均一に伸ばしたり切る工程が難しかった」と感想が聞かれ、地元の手打ちそばを実際に作ってみて新たな発見があったようでした。

全3回の伝承会を通して、生徒たちが郷土料理や地域の食文化について学び、その伝承の大切さを認識してもらえたものと思います。



成谷自然食の会で使っている道具で本格的なそば打ち。



完成した手打ちそば。

普及現地情報
令和6年12月11日
久慈農業改良普及センター
執筆者 田淵麻紘

経営力向上研修会（計数管理、経営継承）を開催しました！

久慈地域の認定農業者や新規就農者等の経営管理手法習得を目的として開催している経営力向上研修の一環として、昨年の「経営発展の基礎知識」に続き、今年は「計数管理及び経営継承」をテーマに11月27日に開催し、農業者10名を含む計12名が参加しました。

第一部では、職員が講師となり、財務諸表の見方や分析手法について講義した後、売上高総利益率や流動比率の演算等を実際に演習し、理解を深めました。

第二部では高野橋和彦税理士事務所の高野橋先生を講師に、経営継承の進め方や資産評価の他、継承に係る税について研修しました。先生の体験談を交えた分かりやすい説明で、参加者から、「農業経営に役立つ」「まさに経営移譲について考えているので参考になった」などの前向きな感想をいただきました。

普及センターでは農業経営者の経営力向上研修の次の企画として、経営計画作成及び実践研修会を1月下旬頃をめどに計画しています。



研修会の様子

水稻新品種「岩手 141 号」の試食会。好評でした！

令和7年度に本格デビューする水稻奨励品種「岩手 141 号」のモデルほ場を久慈管内3市町村に設置し、現地見学会で特性や生育等を生産者や関係者に紹介してきました。参加者から「岩手 141 号」への期待とともに「食味が気になる」といった声が多く寄せられたことから、11月28、29日に「岩手 141 号」の試食・説明会を開催し、生産者や関係者、報道機関等51名に参加いただきました。

普及センターから「岩手 141 号」モデルほ場の生育状況等について説明し、県北広域振興局農政部から作付経営体の要件等について情報提供しました。なお、28日には県北農業研究所から「岩手 141 号」の特性と品質確保対策等を紹介いただきました。

モデルほ場生産者から「栽培管理は『いわてっこ』と特に変わらず、収量も良かった」などの感想をいただき、参加者から「『岩手 141 号』の栽培で気を付ける点は」などの質問が出されました。

「岩手 141 号」の試食では、「いわてっこ」との比較で、「『岩手 141 号』が美味しかった」との声を多くいただきました。

令和7年度は、「岩手 141 号」本格デビューにあわせて、関係機関と連携して、品質・収量の確保に向けた技術指導のほか、学校給食での提供など、認知度向上に取り組む予定です。



「岩手 141 号」説明会の様子



「岩手 141 号」試食の様子

オンラインによる農業現場視察を開催しました！

久慈地域での就農促進を目的に、Zoomで配信する「令和6年度久慈地域オンライン農業現場視察」を令和7年1月20日に開催し、県外の就農志向者や学生など11名が参加しました。

令和元年度から始めたもので、今回で5回目となります。今年度は菌床しいたけについて紹介しました。

視察先は平成30年に就農した野田村の中野琢磨氏で、栽培管理・選別のポイントや就農から現在に至るまでの経緯についてお話を伺いました。

参加者からは、初期費用はどのくらいかかったのか？、しいたけの販売価格は変動が激しいものなのか？など、様々な質問が寄せられました。

農業者の話が分かりやすかったというコメントをいただきましたが、フリップを使った方がより伝わりやすいといった声や、音声映像の配信の安定性についてご意見をいただきました。次回開催に向けてこういった意見を反映・カイゼンし、参加しやすい、わかりやすい現場視察となるよう努めます。



配信の様子

地域で輝く若手女性が集いました ～久慈地域で農業に関わる若手女性の研修交流会開催～

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、1月29日に、地域で農業に関わる若手女性同士がつながり、地域への定着や経営発展に役立てることを目的に標記研修会を開催し、20代～40代の若手女性ら22名が参加しました。

はじめに、地域食材を使用した料理を多数提供している久慈市の洋食レストランオーナー青松慶一氏から、地域活性化に向けたこれまでの取組と今後の展開について講演いただき、同世代で異業種の取組や地域食材の魅力等について学びました。

その後は2班に分かれ、野菜や畜産といった作目であったり、家業や新規就農といった形態等で農業に関わる若手女性が情報交換や意見交換を行い、普段感じていることや悩み、参加者に聞いてみたいことなど、同業ではあるけれど中々集うことがなかった同世代の女性同士で話に花が咲く時間となりました。

今後も、地域の輝く若手女性を後押しできるような研修や交流の機会を設定していきたいと思います。



講師が経営するお店のお茶とケーキで一息つきながら、交流（情報交換）を行いました☕

品揃え充実に向けた野菜栽培について学びました ～久慈地域産直連絡協議会研修会開催～

久慈地域産直連絡協議会では、2月4日に、産直の品揃えの確保と農薬適正使用を目的に標記研修会を開催し、管内産直の出荷者ら26名が参加しました。

研修会では、株式会社渡辺採種場の桂 健也氏を講師に、植物の生理や近年の天候の解説を交えながら、野菜の施肥や耕起、播種といった栽培管理のポイントを講義いただくとともに、おすすめ品種の組み合わせによる長期出荷体系を紹介いただきました。参加者が講師と意見交換する様子から、今年は品揃えの充実が期待できそうです。

また、普及センター職員を講師とした農薬適正使用の講義では、特に、農薬の残留基準超過事例と原因を紹介し、農薬の使用基準の遵守の重要性を改めて確認しました。

普及センターでは、産直連絡協議会と連携し、四季折々に出荷可能な品目の導入支援など、管内産直の品揃え充実に向けた支援をしていきます。



板書や糖度測定、意見交換を交えながら、来作につながる内容を講義いただき、参加者一同勉強になりました。

露地ピーマン栽培で 「グリーンな栽培体系技術検討会」を開催！

久慈地域のピーマン栽培は、令和4年度から本格的に始まったばかりですが、今年度の販売額が約2,000万円に達し、目覚ましい成長を見せています。

露地ピーマン栽培では、ポリマルチと散水チューブを用いたかん水技術による栽培が一般的でしたが、今年度、実施した「バイオマス由来の原料を含む生分解性マルチ」（以下「生分解性マルチ」）と「点滴かん水技術」の検証結果について意見交換を行いました。

（「久慈地方みどりの食料システム戦略推進協議会」主催、2月4日、グリーンな栽培体系技術検討会）

普及センターから、「生分解性マルチ」について、温室効果ガスの排出抑制効果や片付け時の省力性が高いこと、また、「点滴かん水技術」について、「自動かん水施設」等の導入でかん水作業に係る作業時間が大きく削減できることを説明しました。

実証に参加した生産者は、「生分解性マルチ」や「自動かん水装置」の省力性について実感しており、益々の普及が期待されます。

来年度は、圃場にすき込んだ「生分解性マルチ」の後作に与える影響のほか、「点滴かん水技術」による化学肥料の低減効果について、引き続き検証する計画です。



検討会の様子



自動かん水装置による省力化

農業農村指導士・青年農業士が認定期間満了

令和7年2月4日の「令和6年度岩手県農業農村指導士認定証書交付式・感謝状贈呈式」において、認定期間が満了となった岩手県農業農村指導士への感謝状贈呈が行われ、久慈管内からは長坂信一さんと堤内裕子さんに感謝状が贈呈されました。

お二人とも当日の出席ができませんでしたので、2月12日に久慈農業改良普及センター所長から贈呈されました。

お二人とも岩手県農業農村指導士は卒業されますが、今後も久慈地域農業の発展にお力添えいただければ幸いです。



長坂 信一さん（久慈市 農業農村指導士）

【経営内容】ほうれんそう、菌床しいたけ、水稻

【経歴および実績】平成元年に就農され、平成18年に農業農村指導士に認定されました。

農業施設や農業機械を計画的に導入してほうれんそうの規模拡大を図ってきたほか、平成23年から菌床しいたけ栽培を組み合わせた複合経営に取り組んできました。ほうれんそうでは、土づくりや病害虫・雑草防除、品種比較実証に積極的取り組み、新岩手農業協同組合 産地リーディングサポーターとして産地をけん引してきたほか、就農志向者の研修や農業体験、視察等の受入を積極的に行い、後進の育成に尽力してきました。また、家族経営協定に基づき家族内の作業分担を行い、年間を通じた効率的な労働配分に努め、令和6年には長男に経営継承しました。

堤内 裕子さん（洋野町 青年農業士）

【経営内容】酪農

【経歴および実績】北海道で学び、南十勝酪農ヘルパー組合に勤務した後、平成23年に酪農専業経営を行う両親のもとに就農され、令和元年に青年農業士に認定されました。

TMRセンターを活用した飼料生産の共同化に取り組むとともに、フリーバーン牛舎を導入し、飼養牛の乳用強健性向上による長命連産や、TMR飼料の活用による乳量増加を図ってきました。また、新しいわて くじ酪農生産部会女性部（通称：ミルクレディーズ）等の会員として、研修に積極的に参加して技術研鑽に努めたほか、地元小学校への「酪農出前授業」や一般消費者を対象としたアイスクリームづくり体験の指導を行うなど、若手農業者として率先して組織活動に携わってきました。

岩手県農業農村指導士

○農業農村指導士

令和7年4月1日現在

	認定番号	市町村	氏名	営農類型	久慈地域農業農村指導士等連絡会役員
1	338	久慈市	長坂 亜紀子	野菜	
2	421	野田村	鹿糠沢 津嘉	水稻・野菜	監事
3	436	久慈市	戸崎 武幸	菌床しいたけ	会長
4	465	洋野町	塩倉 康美	酪農	副会長
5	497	洋野町	塩倉 健一	酪農	事務局長
6	515	久慈市	中屋敷 稔	短角牛繁殖肥育一貫、和牛繁殖	
7	516	久慈市	大鹿糠 正行	水稻、果樹、花き、菌床しいたけ	
8	517	洋野町	北村 卓也	野菜	
9	532	久慈市	大芦 博之	酪農	
10	533	久慈市	田村 憲史	酪農	

○青年農業士

	認定番号	市町村	氏名	営農類型	久慈地域農業農村指導士等連絡会役員
1	341	久慈市	越戸 翔	菌床しいたけ	事務局次長
2	342	久慈市	本波 済	野菜	

いきいき農村基盤整備事業



1 事業の趣旨

国庫補助事業の対象とならない小規模な地区において、営農の継続を通じて農業・農村の維持・発展を図るため、地域の実情に応じたきめ細かな基盤整備を実施します。

2 事業内容

区分	工種	補助率等	備考
定額補助	(1) 田畑の区画拡大	6～25 万円/10a (22.5～42 万円/10a) 等	() は水路の変更(管水路化等)を伴う場合
	(2) 暗渠排水	10.5～19 万円/10a	吸水渠(暗渠)の間隔が 10m 以下の新設
	(3) 湧水処理	20.5 万円/100m、18.5 万円/100m	表土扱い有り、無し
	(4) 畑地かんがい施設	29 万円/10a、18.5 万円/10a 等	樹園地、樹園地以外等
	(5) 土層改良	26 万円/10a、23.5 万円/10a 等	客土、除礫等
	(6) 耕作放棄防止	2.5 万円/10a、3 万円/10a	発生防止、土壌改良
	(7) 更新整備	12.5 万円/10m、22 万円/10m 等	用水路、排水路等
	(8) 畑作転換工	1.5 万円/100m、0.5 万円/10a	額縁排水溝、酸度補正
	(9) スマート農業普及啓発・試行支援	20 万円/地区 60 万円/地区	先進地研修費 スマート農業機器レンタル
定率補助	(10) 農業用排水施設	事業費の 50% (55%)	農業用排水施設の新設、廃止又は変更(地下かんがいシステムを含む)
	(11) 暗渠排水	事業費の 50% (55%)	暗渠の新設又は変更、補助暗渠
	(12) 土層改良	事業費の 50% (55%)	客土、混層耕、除礫、心土破碎及び土壌改良
	(13) 区画整理	事業費の 50% (55%)	農用地の区画形質の変更
	(14) 農作業道等	事業費の 50% (55%)	農作業道・進入路等の新設、更新
	(15) 農地造成	事業費の 50% (55%)	農用地の造成
	(16) 農用地の保全	事業費の 50% (55%)	(10)～(15)以外の農用地の改良又は保全のための必要な事業
	(17) 営農環境整備支援	事業費の 50% (55%)	安全施設・農作物被害防止施設の整備等
	(18) スマート農業導入支援	事業費の 50% (55%)	GNSS 基地局の新設・更新、自動操舵システム、自動給水栓、ロボット草刈機等の先進的省力化技術の導入
	(19) 小規模園地整備	事業費の 50% (55%)	小規模な園地整備
	(20) 粗放的農地利用整備	事業費の 50% (55%)	用地整備、作業道等の設置、土地改良施設の撤去等
	(21) 管理省力化支援	事業費の 50% (55%)	水管理、維持管理労力省力化、除草の用に供する共同利用機器の導入
	(22) 特認事業	事業費の 50% (55%)	知事が特に必要と認めるもの

※1 下線の工種は令和7年度予算から新たに追加【新規】

※2 定率補助の()は、中山間地域に係る補助率

3 事業要件

事業費 200 万円未満、受益者 2 者以上

4 事業実施主体

市町村、土地改良区、農地中間管理機構、農地所有適格法人、多面的機能支払交付金の活動組織等

5 補助率・負担区分

- ・ 2 の(1)～(9) : 定額補助
- ・ 2 の(10)～(22) : 定率補助 < 県 50% (55%)、市町村・受益者等 50% (45%) >

※ () 書きは中山間地域の場合

6 事業実施期間

令和2年度～令和11年度

7 予算額

100,000 千円 (令和6年度当初 57,000 千円)

8 担当課

県北広域振興局農政部農村整備室 農村計画課

TEL 0194-53-4988



令和7年度 いわてグリーン農業アカデミー

受講料
無料

受講生募集中

環境負荷を低減する農業者の育成を目的として、スマート農業技術を活用した有機農業をはじめとした環境保全型農業を実践する上で必要な知識や技術を習得する、「いわてグリーン農業アカデミー」を開講します。

1 対象者

岩手県内に在住、または居住予定で、環境にやさしい農業を志向、実践する方

2 場所

岩手県農業研究センター県北農業研究所等(岩手県九戸郡軽米町大字山内23-9-1)

※ 一部カリキュラムは、岩手県立農業大学校 農業研修館、宮古地区合同庁舎でリモート受講できます。

3 実施時期

5・7・8・9・11・1月の各1回(全6回)

4 募集定員・募集時期

15名・令和7年2月3日(月)～3月21日(金)

5 その他

研修は単位制とし、8割以上の単位を取得し、研修成果である「環境負荷低減事業活動実施計画」(以下「みどり計画」という。)を完成させた受講者に「修了証書」を授与します。

6 受講料

無料(昼食代や、事例研修に係る保険代は、別途実費を請求します)

【問い合わせ先】岩手県立農業大学校(〒029-4501胆沢郡金ケ崎町六原蟹子沢14)

TEL 0197-43-2211 メール CE0014@pref.iwate.jp

※ 本研修は、令和7年度当初予算の成立を前提として募集を行っており、県議会での審議状況等により、募集の停止、事業内容の変更等の措置を行うことがあります。
※ 研修の様子を撮影し、当校ホームページやSNSなどで使用しますので、御了承の上お申込みください(お申し込みをもって御承いただいたものとみなします)。

第1回

5月28日(水)

開講式
みどりの食料
システム戦略 ほか

第2回

7月9日(水)

総合的病害虫防除
最新の研究成果
「みどり計画」作成演習

第3回

8月6日(水)

スマート農業実践事例
スマート農機実習

第4回

9月3日(水)

県内実践事例
「みどり計画」素案検討

第5回

11月5日(水)

土づくり、土壌診断
土づくり実践事例
「みどり計画」発表準備

第6回

1月16日(金)

「みどり計画」発表
閉講式

【申込方法】

「受講申込書」をメール、郵送いずれかで
当校に提出してください。

E-Mail CE0014@pref.iwate.jp)



募集要領・申込書様式

令和7年度 カリキュラム

(予定：講師の都合等により、変更することがあります)

回	内 容		単位	
			数	評価方法
第1回 5月28日(水) 9:45~15:30	開講式、オリエンテーション		—	—
	・ みどりの食料システム戦略（概要、制度の趣旨、政策、目標、支援措置等） ・ 有機農業概論（有機農業の意義、特徴、取り組む上でのポイント等） ・ 有機JAS認証制度	講義	4	出席状況及びレポート
	・ 本研修受講で目指す目標と取組方向（事前課題に基づく発表）	演習	1	
15:30~17:00	・ 有機農業よろず相談（任意参加）	—	—	—
第2回 7月9日(水) 10:00~15:30 ※リモート会場設置	・ I P M（総合的病害虫・雑草管理） ・ 環境負荷低減を図る試験研究成果 ・ 有機栽培に関する技術開発の現状と研究動向	講義	4	出席状況及びレポート
	・ 「みどり計画」の作成演習（有機質資材の施用、化学肥料の施用減少、化学農薬の使用減少 等）	演習	1	
第3回 8月6日(水) 10:00~15:30	・ スマート農業実践事例	事例研修	1	出席状況及びレポート
	・ スマート農機の活用と操作実習（予定：自動操舵トラクタ、ラジコン草刈機など）	演習・実習	2	
第4回 9月3日(水) 10:00~15:30	・ 県内実践農家（2カ所）	事例研修	2	出席状況及びレポート
	・ 「みどり計画」素案検討、意見交換	演習	1	
第5回 11月5日(水) 10:00~15:30 ※リモート会場設置	・ 土づくりと土壌診断の基礎及びたい肥と有機物の活用法	講義・実習	2	出席状況及びレポート
	・ 土づくり実践事例	講義	1	
	・ 「みどり計画」発表準備	演習	1	
第6回 1月16日(金) 10:00~15:30	・ 研修成果発表会、「みどり計画」発表（PowerPointにより受講者が発表） ※この計画は「みどりの食料システム法」の認定制度である「みどり認定」の計画書として、計画認定申請に活用することができます。	演習	—	「みどり計画」完成状況
	閉講式		—	

「みどり認定」を受けるメリット

- ① 設備投資の際の所得税・法人税が優遇されます！
- ② さまざまな国庫補助金の採択で優遇されます！

経営感覚・企業家マインドを持って
経営革新や地域農業の確立に取り組む、
**先進的な農業経営者等を
養成します!**



募集
期間

2025
1.20 ▶ 4.11

令和
7年度

受講生募集

定員

35名

授業料

21,000円／1年

※ただし、現地研修等の参加費は別途必要な場合があります
※教育訓練給付制度【専門実践教育訓練】対象講座です(再指定申請中)

開講期間

令和7年5月下旬～令和8年2月

開講場所

岩手大学農学部 (盛岡市上田三丁目18-8) 等

授業プログラム

- 1 農業経営 科目群
- 2 6次産業化 科目群
- 3 農村地域活動 科目群

受講対象者

岩手県内に居住し、大学の受験資格を有する以下の者

- 農業経営者、農業後継者、農業従事者等
- 6次産業化に取り組んでいる者
又はそれを支援している者
- 農村地域活動に携わる者
(地域振興、土地改良、担い手育成等のリーダー
又はそれらの者を支援している者等)

アグリ管理士取得!!

条件を満たして修了された方に
岩手大学が認定する
「アグリ管理士」資格を授与します



本教育プログラムは、文部科学省「職業実践
力育成プログラム」に認定され、また、厚生労
働省「教育訓練給付制度(専門実践教育訓
練)」の講座指定を受けました。



出願・問い合わせ先

いわてアグリフロンティアスクール運営協議会事務局

(岩手大学農学部地域連携推進室内)

TEL:019-621-6231 FAX:019-621-6107

Email: atiren@iwate-u.ac.jp



主催：いわてアグリフロンティアスクール運営協議会
(岩手大学、JAいわてグループ、岩手県)

募集要項・入学
申込書はコチラ

<http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/iafs/>

<令和7年度教育プログラム>（予定）

科目名			日数	時間数 (単位：h)	科目群			(参考) リモート (R6実施)
					農業経営	6次産業化	農村地域活動	
「経営管理」 科目	農業を巡る内外情勢	講義	0.5	3	○	○ 18時間 以上 ※1	○	
	農業経営の発展と農業協同組合	講義	1	6	○		○	
	人的資源・労務管理	講義	1	6	○		○	
	経営成長・経営継承	講義	1	6	○		○	○
	農業経営戦略論	講義	1	6	○		○	○
	会計・財務管理と経営診断	講義・演習	2	12	◎	◎	○	○
	農業簿記・経営診断演習	講義・演習	1	6	○	○	○	○
	デジタル技術活用	講義	1	6	○	○	○	○
「戦略計画」 科目	農業経営戦略演習	演習	1	6	◎	◎	◎	
	経営改善計画演習	演習	1	6	◎	◎	—	
	農業・食ビジネス戦略計画の策定	講義・演習	2	12	◎	◎	—	
	地域振興戦略計画の策定	講義・演習	3	18	—	—	◎	
	戦略計画のプレゼンテーション	発表	1	6	◎	◎	◎	
「マーケティング」 科目	商品開発	講義	0.5	3	○	○	○	
	デザインとブランド	講義・演習	1	6	○	○	○	
	食の安全管理	講義	1	6	○	○	○	○
「農業生産管理」 科目	土壌管理（土壌・肥料）	講義	1	6	○ 9時間 以上 ※1	○ 9時間 以上 ※1	○	○
	病虫害管理（防除・農薬）	講義	1	6			○	
	農業生産の工程管理	講義	1	6			○	○
	農業機械・スマート技術	講義・演習	1	6			○	
「6次産業化推進」 科目	鮮度保持・流通技術	講義	1	6	○ 12時間 以上 ※1	○	○ 9時間以 上 ※1	
	農産加工品のマーケティング	講義	1	6				○
	地域資源活用論	講義	1	6				○
	食産業ビジネス論	講義	1	6				
「農業農村 マネジメント」 科目	地域担い手形成論	講義	1	6	○ 12時間 以上 ※1	○ 9時間 以上 ※1	○	
	地域マネジメント論	講義・演習	1	6			○	
	地域リーダー活動演習	講義・演習	1	6			○	○
	都市農村交流論	講義	1	6			○	○
	地域活性化論	講義・演習	2	12			◎	
現地研修等	現場スタディ	現地研修	2	12	○	○	○	
	マーケティング改善演習※2	演習・現地研修	2	12	○	○	○	○
	農業技術先進地研修※2	現地研修	2	12	○	○	○	
	6次産業関連現地研修※2	現地研修	2	12	○	○	○	
	アグリ管理土との意見交換	講義・意見交換	1	6	○	○	○	
	インターンシップ【選択科目】	現地研修	1	6	※○	※○	—	

受講可能時間数：228時間、修了にかかる必須時間数：120時間（必修科目含む）

※1：記載の単位数以上受講することが望ましい ※2：インターンシップを行う者は※2の科目のいずれかと振替可能

対面とリモートのハイブリット型の講義（7～10講義程度）を予定

山火事注意

春は空気が乾燥し、風の強い日が多いため、山火事が起きやすい季節です
野焼き、たき火、たばこ、火の扱いには細心の注意を！！



令和7年山火事防止運動統一標語
ふるさとの 山を守ろう 火の手から

3月1日～5月31日は山火事防止運動期間です

久慈地方林業振興協議会

電子メールを活用した農業情報のサービスを行っています

久慈農業改良普及センターでは、農作物技術情報、台風や気象災害などへの注意情報、病害虫に関する情報、スマート農業に関する情報などをタイムリーに入手することに役立つメール配信をしています。

ご自身のメールから ce0026@pref.iwate.jp (普及センター組織アドレス) まで「氏名」、「住所」、「電話番号」を送信していただければ、いつでも登録できます。登録すれば久慈農業改良普及センター(地域 ML)からだけでなく、県(県 ML)からも情報が配信されます。

【二次元バーコードからも申込みできます】

これまでに県から配信した内容は、次のような内容です。

- ・農作物技術情報(毎月、号外あり)
- ・農作物病害虫発生予察情報
- ・病害虫防除速報(水稻、野菜、果樹、花きなど)
- ・産地情報「産地紹介・人物紹介」(毎月)
- ・県からのお知らせ(イベント案内、研修会案内など)



今後も随時、情報発信していきますので、ぜひご活用ください。

～いわてアグリベンチャーネット掲載記事の紹介～

いわてアグリベンチャーネットでは、毎月、各地域の農業情報をお知らせしています。

【11～2月分の掲載記事】

○産地紹介:《二戸》産地・産直等紹介『なくてはならない地域の大事なお店です』

《奥州》夏の猛暑に負けない! 江刺地区のトマト産地の取組

《久慈》産地情報「共につながり、未来につなげる肉用牛振興」

《宮古》産地記事『宮古市川井地区におけるしそ生産～川井赤しそが地理的表示(GI)登録に～』

○人物紹介:《大船渡》人物紹介「釜石市佐野朋彦さん～釜石地方伝統の秋の味

「甲子柿」を召し上がれ～」

《中部》人物紹介「地域の担い手として奮闘中!」 多田貴博さん

《一関》人物紹介「地域の農地の受け皿を作りたい!」 槻山隆幸さん

《盛岡》人物紹介 新岩手農業協同組合南部営農経済センター

水本(みずもと) あゆみさん

○『普及活動年報』 県内各地域の普及センターの取組を紹介します。

下記の URL、または右の二次元バーコードからご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/index.html>



久慈農業改良普及センターfacebook 公開中!

久慈寒次郎が、最新の情報や、HOT な情報をお届けします。

下記の URL、または右の二次元バーコードからご覧ください。

<https://www.facebook.com/岩手県久慈農業改良普及センター-581601925540151/>

